

11月は投信全体・つみたてNISA投資家で日本株人気が続!
日経平均インデックス・ファンド人気は「つみたてNISA」の要件
合致より、ロードやノーロード信報0.5%超・代行0.4%超!?

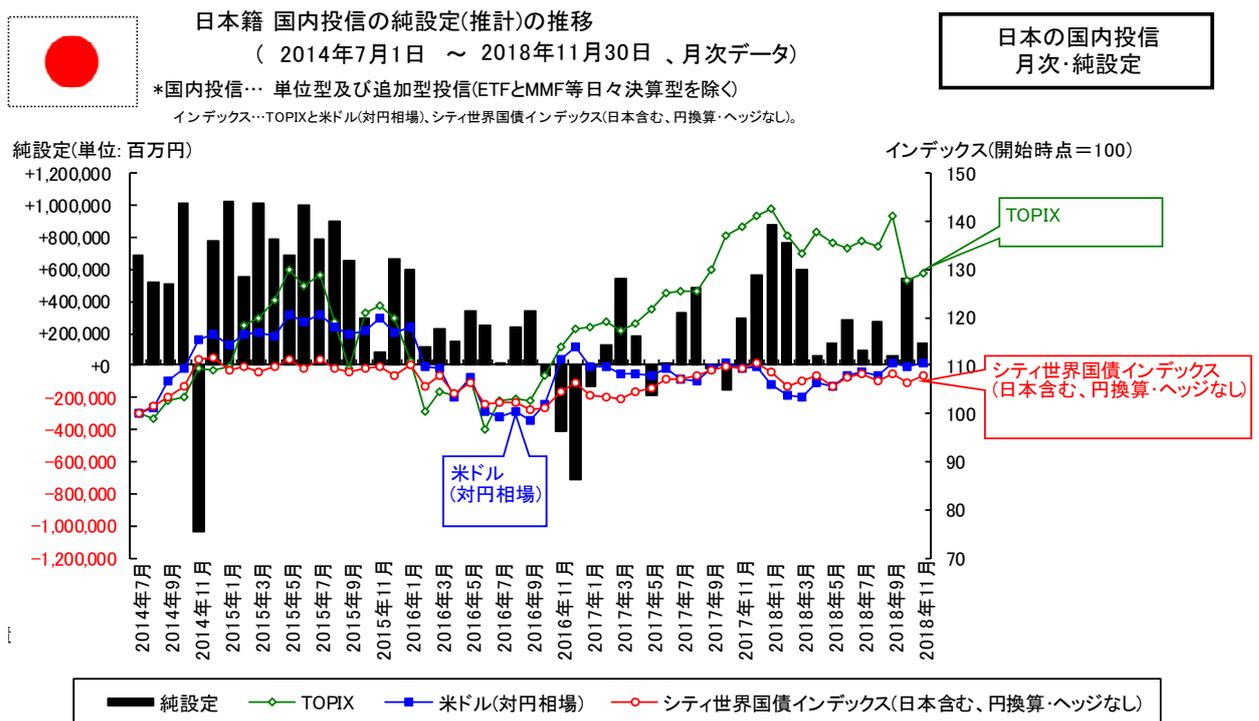
商品マーケティング企画部 松尾 健治
窪田 真美

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

投信フロー最新動向～既存投資家(投信全体)は日本株～

2018年11月、恒例のNISAでどのような投資が行われてきたかを見る。NISAでの投資でその半数近くを占めている投信の最新動向は、今後のNISA投資家に有用なものになると思われる。「つみたてNISA」を含むNISAの投資対象となる投信(ETF含む)の最新2018年11月の動向を見る。まず投信の最新フロー(純設定)である。NISA投資家を「既存投資家」と「新規投資家」に分けて見る。NISAの「既存投資家」は投信全体のフローで代替し、NISAの「新規投資家」は「NISA向けファンド」(後述※1参照)で代替する。

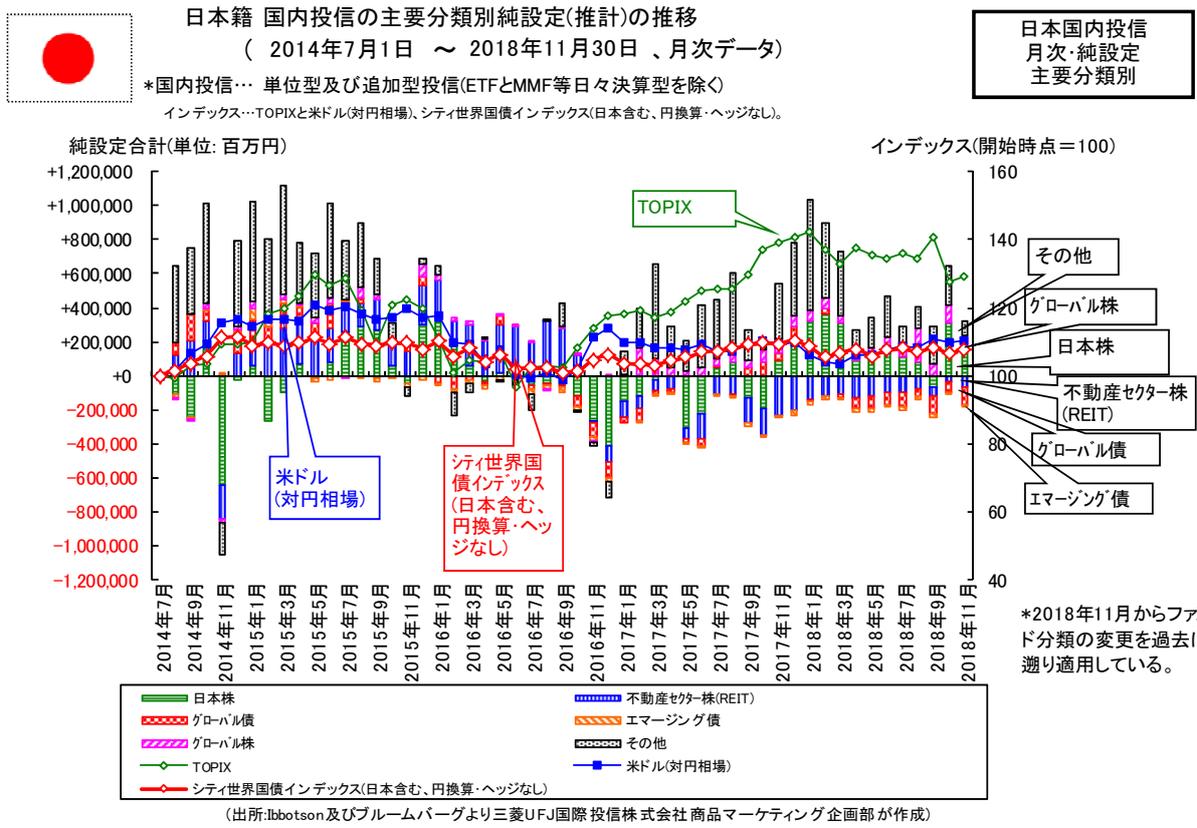
既存投資家(投信全体)の純設定は2018年11月に+1428億円と、前月10月の+5403億円という7カ月ぶりの大きさから急減速も、13カ月連続の純流入となった。



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

既存投資家(投信全体)の純設定を、投資対象(主要分類～*)別で見る。2018年11月に最も純設定の大きかったのは日本株(前月10月も1位)、グローバル大型株(前月10月3位)、ヘルスケア株(前月10月2位)と上位3分類の顔ぶれは前月と変わらず、次いでアセロアロケーション慎重型(前月10月6位)、マルチオルタナティブ(前月10月10位)。日本株とヘルスケア株の純設定は、それぞれ前月から半減。グローバル株(+930億円～大型株と中小型株の合算)は、前月10月(+1500億円)の4割程度の減少だが、大型株だけでは1割減にとどまる。

*主要分類…モーニングスターによる分類で2017年12月末の純資産の大きい上位5分類である。グローバル株は、2018年11月1日のグローバル分類の変更でグローバル大型株及びグローバル中小型株と分かれた為、次頁グラフでは、従来通りの「グローバル株」として合算する。また、ヘルスケア株及びアセロアロケーション型、マルチオルタナティブは「その他」に含んでいる。



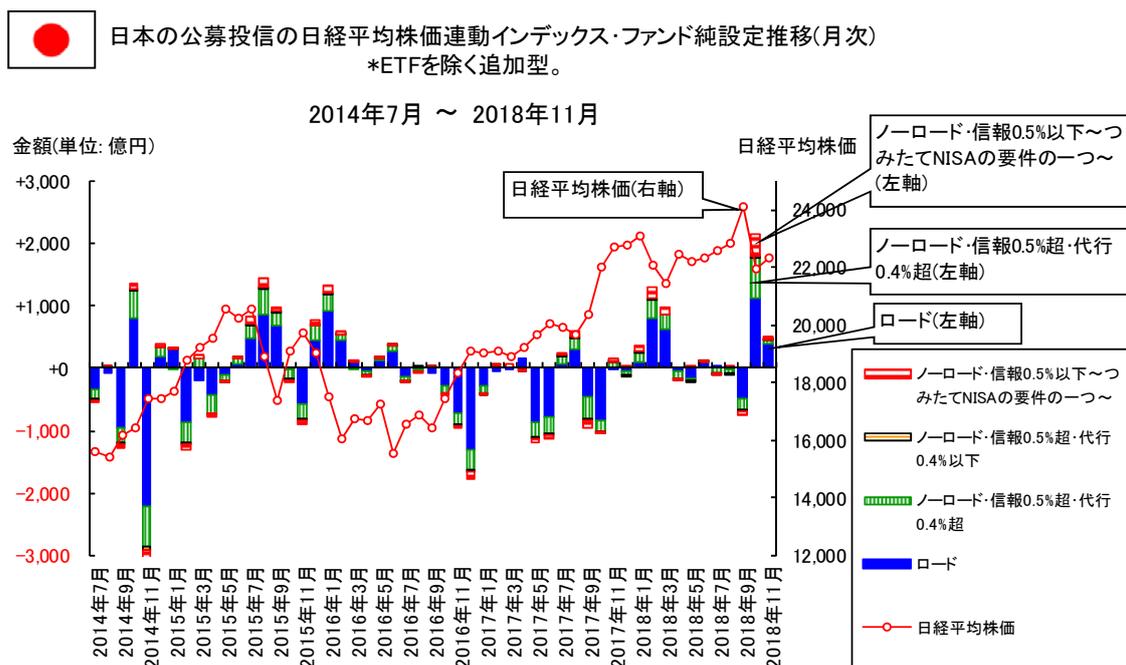
日経平均インデックス・ファンド人気は「つみたて NISA」の要件合致より、ロードやノーロード情報 0.5%超・代行 0.4%超!?

既存投資家(投信全体)で2018年11月、前月に続き、純設定が最も大きかった日本株は+1565億円と、前月10月(約+3150億円)から半減。前月10月は日経平均株価が月間で-9.1%という2016年6月(-9.6%)以来の大きな下落率となり「株安のときに安値で買う『逆張り』の資金が流入」(2018年11月7日付日本経済新聞～URLは後述[参考ホームページ]①参照)で日経平均連動型インデックスファンドが純設定の上位に並んだ。だが11月は、日経平均株価は月間+2.0%と戻している為に流入が減少したと思われる。

「国内株式インデックス・ファンドの日次の資金動向をみると、日経平均株価が500円近く下落した翌営業日の14日には150億円に迫る資金流入があった。その一方で、日経平均株価が22,000円を超えると資金流入が止まっていたことが分かる。特に、日経平均株価が500円以上上昇し22,000円台を回復した翌営業日の5日、22,500円に迫った翌営業日の14日、月末の29日、30日は、流出金額自体は小額であったが資金流出に転じていた。」(2018年12月5日付ニッセイ基礎研究所金融研究部前山裕亮准主任研究員「大型新規公開株の影響が投信市場に～2018年11月の投信動向～」～URLは後述[参考ホームページ]①参照)と言われている。

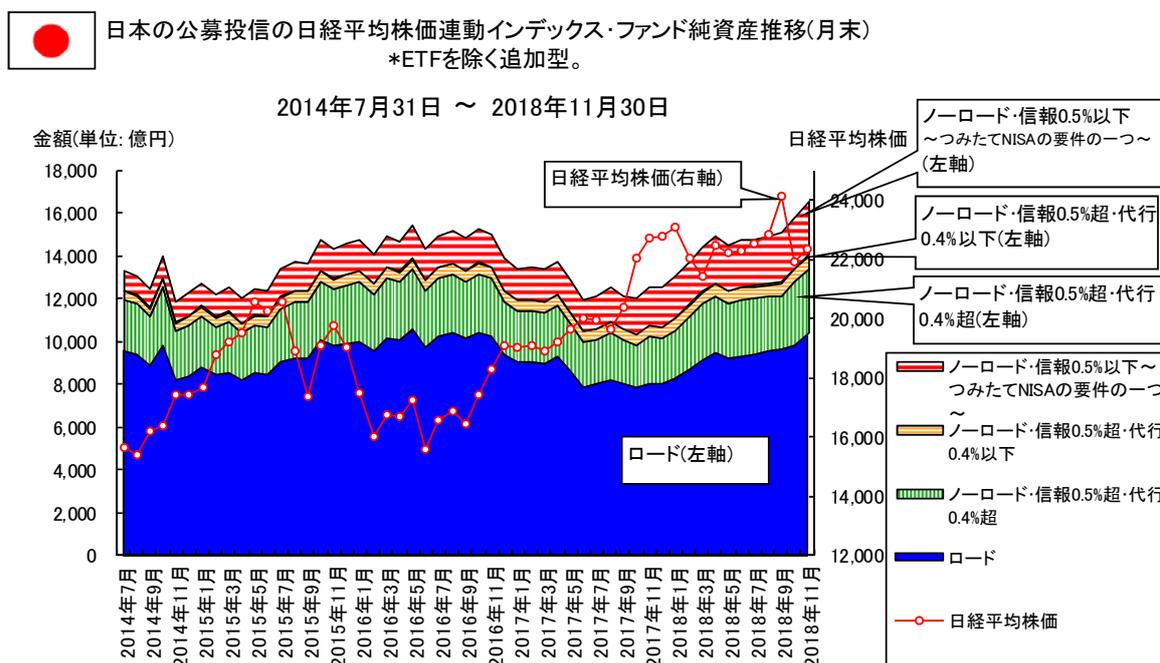
「ファンドの購入時に手数料がかからない『ノーロード』タイプの投資信託の設定が近年増えている。…(略)…。ノーロード投信は購入時の手数料が発生しないことが最大のメリットであるが、信託報酬についても相対的に低いファンドが多く、投資初心者向きのバランス型ファンドの設定が増えていることから注目したい。」(2018年12月5日付モーニングスター・ジャパン「アナリストの視点(ファンド)ノーロード投信は信託報酬も安い? 注目のカテゴリーは?」～URLは後述[参考ホームページ]①参照)とも言われている。

日経平均株価連動インデックス・ファンドの月次純設定推移を見た(*ETFを除く追加型)。 つみたてNISAの要件に「ノーロード・信報0.5%以下」がある事、日経平均株価連動インデックス・ファンドのロードの単純平均が1.76%、信報と代行(手数料)の単純平均が各々0.56%と0.29%である事などを参考に分類した(つみたてNISAの要件について詳細は後述[参考ホームページ]①参照)。 年初来純流入計+4019億円となる中、その内訳は、大きい順に、ロード+2362億円、ノーロード・信報0.5%超・代行0.4%超+907億円、ノーロード・信報0.5%以下~つみたてNISAの要件の一つ~+689億円、ノーロード・信報0.5%超・代行0.4%以下+62億円である。 日経平均インデックス・ファンド人気はつみたてNISAの要件合致より、ロードやノーロード・信報0.5%超・代行0.4%超となっている。



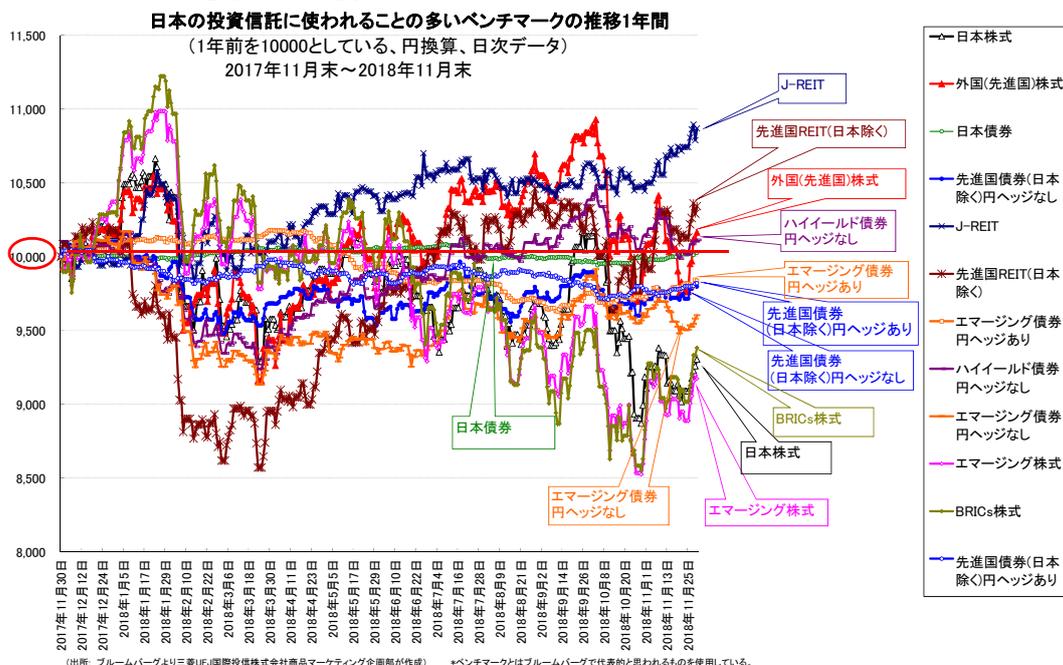
(出所:ブルームバーグ、Morningstar Directより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

下記は日経平均株価連動インデックス・ファンド純資産推移(月末)である(*ETFを除く追加型)。

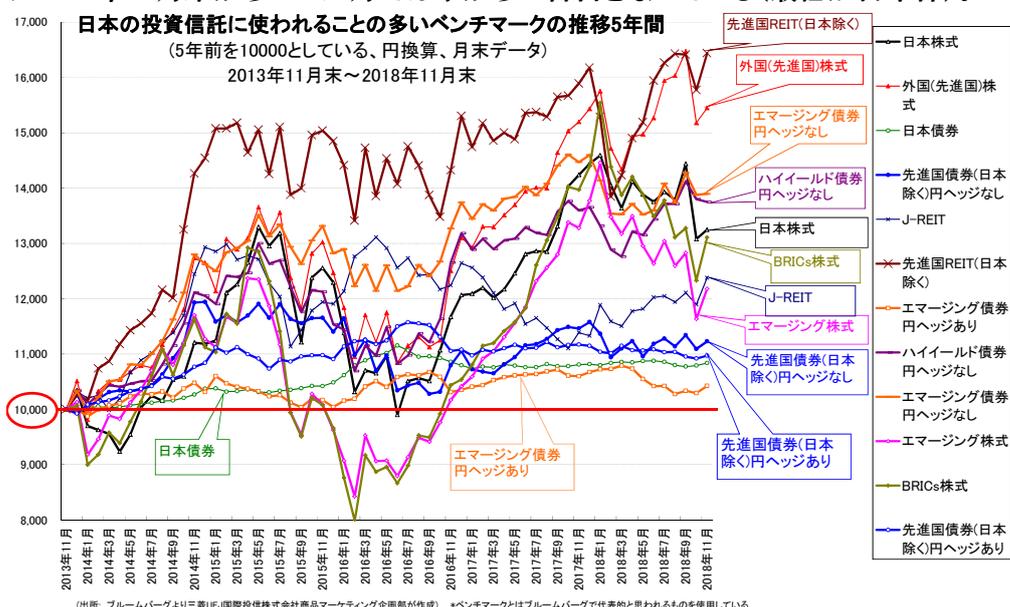


(出所:ブルームバーグ、Morningstar Directより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

ここで日本の投信に使われることの多いベンチマークの2018年11月末までの1年間のパフォーマンス推移を見たものが下記グラフである。パフォーマンスの好い順に、日本REIT、先進国REIT、先進国株式、ハイイールド債券円ヘッジなし、日本債券、エマージング債券円ヘッジあり、先進国債券円ヘッジあり、となっている(*1年前を10000としている、円換算、日次データ)。日本株のパフォーマンスは1年では、下記ベンチマーク中、下から2番目(最低がエマージング株式)、2018年8月末からの3カ月では最低だったが、3年では6番目、5年では5番目に好いパフォーマンスとなっている。



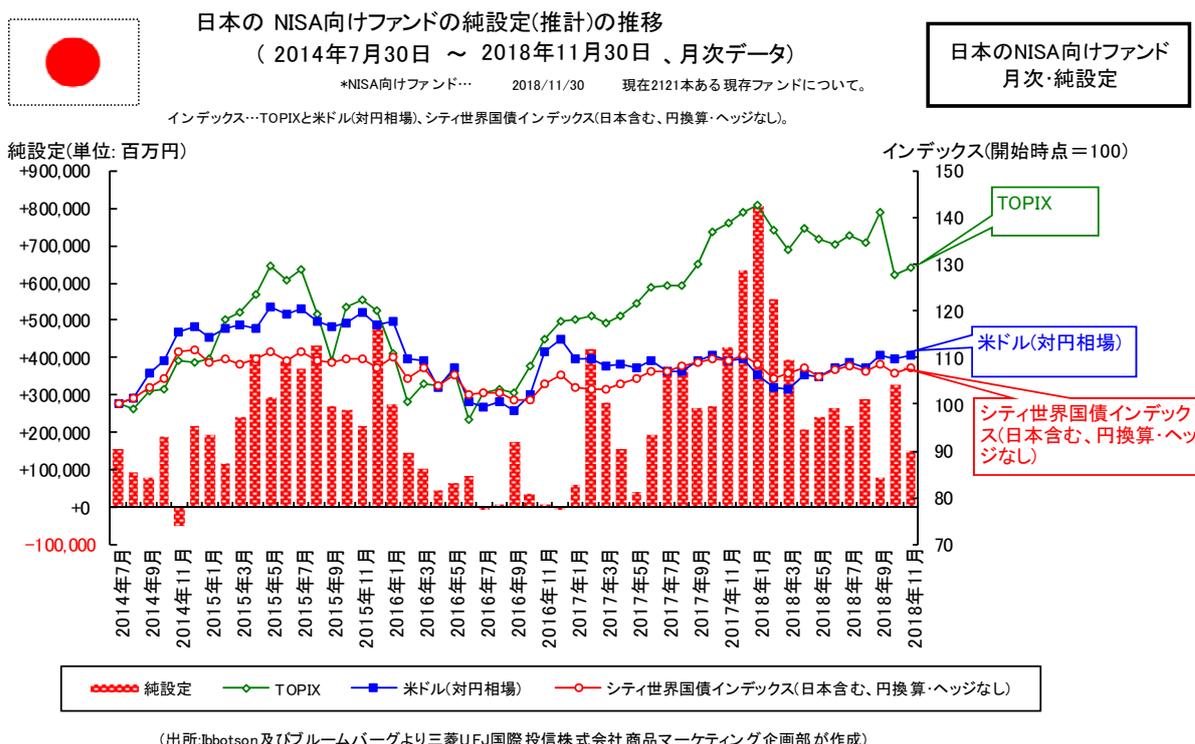
下記グラフは5年のパフォーマンスである。パフォーマンスの好い順に、先進国REIT、先進国株式、エマージング債券円ヘッジなし、ハイイールド債券円ヘッジなし、日本株式、BRICs株式となっている(*5年前を10000としている、円換算、月末データ)。5年で下記グラフのベンチマークで最も好いパフォーマンスの先進国REITは、2018年5月末からの半年でも最も好く、1年では2番目、2018年11月の1ヶ月では3番目に好かった。先進国REITに次いで5年で2番目に好いパフォーマンスとなっている先進国株式は、3年や1年では3番目に好いパフォーマンスだったが、2018年8月末からの3カ月では下から2番目となっている(最低が日本株)。



日本株に次いで11月の純設定が大きかったグローバル大型株は、11月に+883億円と1年11カ月連続の純流入。3番目に純設定の大きかったヘルスケア株は、前月10月は+1307億円と新規設定ファンドも加わり、過去4年半で最大となったが、11月は+626億円と約半減したものの、6カ月連続の純流入。

投信フロー最新動向～新規投資家(NISA向けファンド)は実質グローバル株～

次に新規投資家(NISA向けファンド)の純設定を見る。最新2018年11月は+1500億円と、前月10月(+3270億円)の半分以下となり、2018年において、最も純設定の小さかった9月に次いで2番目に小さな純流入だった。2017年1月から1年11カ月連続の純流入。



※1: 「NISA向けファンド」…

投資信託協会の言う「NISA向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URLは後述[参考ホームページ]②参照)、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA向け」、「NISA専用」、「NISAで選ぶ」、「NISAにおすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。

投資信託協会は「NISAにおいては一般的に、投資未経験者層、或いは久々に投資を行う層を意識して、比較的风险を抑えた商品」とも言っている(URLは後述[参考ホームページ]③参照)。尚、2013年4月以降と言うのは、NISAが含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年1～2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1～2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1～2回以外を除いている(*マネー・プールは年1～2回でも除いている)。こうした「NISA向けファンド」を抽出した所、2018年11月30日時点で2121本となった。

以上、既存投資家(投信全体)でも、つみたて NISA 投資家(つみたて NISA 適格投信)でも、前月に引き続き日本株が人気であり、新規投資家(NISA 向けファンド)ではグローバル株人気が続いていた。今後を示すものではないが、こうした情報が「商品が選びにくく種類が多く選択に迷う人」(投資信託協会～URL は後述[参考ホームページ]⑤参照)が多いと思われる NISA 等を検討する投資家に少しでも参考になれば幸いである。

以上

[参考ホームページ]

①2018年11月7日付日本経済新聞「10月の投信、5800億円の資金流入超に」…

「<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ0373592000511201800000/>」、2018年12月5日付ニッセイ基礎研究所金融研究部前山裕亮准主任研究員「大型新規公開株の影響が投信市場に～2018年11月の投信動向～」…「https://www.nli-research.co.jp/topics_detail2/id=27924?site=nli」、2018年12月5日付モーニングスター・ジャパン「アナリストの視点(ファンド) ノーロード投信は信託報酬も安い? 注目のカテゴリーは?」…「<https://www.morningstar.co.jp/fund/analyst/2018/4q/MFA120181205.html>」、つみたて NISA の要件は 2017 年 4 月 24 日付日本版 ISA の道 その 179「積立 NISA の適格投信は全体の 1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の 1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…「<https://www.am.mufg.jp/text/oshirase.170424.pdf>」。

②2014年1月8日付投資信託協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」…「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」。

③2013年11月21日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…

「<http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/>」、2018年3月7日付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書-2017年」…「<https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2017/>」。

④2017年4月24日付日本版 ISA の道 その 179「積立 NISA の適格投信は全体の 1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の 1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…

「<https://www.am.mufg.jp/text/oshirase.170424.pdf>」。

⑤2013年11月21日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…

「<http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/>」、2018年3月7日付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書-2017年」…「<https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2017/>」。

三菱 UFJ 国際投信【投信調査コラム】日本版 ISA の道 バックナンバー…「<https://www.am.mufg.jp/market/report/investigate.html>」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index L.L.C.により開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。